

司会： いい面ばかり出てきていますが、高齢化が着実に進んでおり、草刈りもできない、買い物もできない、ゴミも出せない方もいらっしゃいます。それを手助けする「何でもお助け隊」、勝手に名前を付けていますが、それをやりたいという方がメンバーの中でいらっしゃいますので、Bさん、そのことをお願いします。

Bさん： 年がたって動けない、ゴミが出せない、家が壊れたけど直してくれないかという方がいます。それで周りを見たら、定年で退職した元専門家、技術職の人がいる。しかも用事がないので遊んでいる。そういう方をここに入れたら、これは何でもできるのではないかと思います、私が提案させていただきました。現在は、全てボランティアでやっていますが、ある程度お金をもらい、そして仕事をしてもらう人にもお金を出して、双方がやっていけるのが一番いいのではないかと思います。お百姓の手伝いから、大工さんのお仕事も、水が漏れだしたら水道のお手伝いもという感じで、やっていったらと友達に話をしました。この不況で失業している職人もいっぱいいます。そんな話をしていたら、給料は普段の日当ほど出ないけど、空いているときにはメンバーに入れてくださいという声が聞こえる状態なので、ぜひやってみたいと思っています。

～ 中 略 ～

知事： 先ほどご意見をいただいた「お助け隊」の話、どんどん高齢化が進んでいますので、確かに困っておられる方もいると思います。中山間対策は、県としても本当に試行錯誤の繰り返しではないかと思っています。20年度予算の時に少し拡充をして、この時には二つ対策をたてました。一つは生活を守るための事業。例えば水道が全くない、だから簡易水道ができるようにならないかとか。それから当時すごく心配をしたのは、高齢者の皆様の日々の生活の足が非常に苦しいのではないか。だから例えば軽トラなどを地域で共同購入する場合には一定の補助をする、そういうことを新しいメニューとして作って、他にもいろいろなメニューがありますので、できる限り使っていただけたらと思います。

もう一つは、産業を作るです。これがむしろ、今どんどん発展して、地域アクションプランとか、産業振興計画になっているんだと思います。ただ生活を守ることについて言えば、高齢者が一人暮らしでかつ加齢に伴う障害をおっておられる方もたくさんおいでだと思いますので、そういう方に対するケアをどうするか、やはりこれが大きな課題だと思います。これに関しては、いろいろな仕組みがあると思います。例えば「見守り隊」みたいなものもあります。高知新聞さんも例えば新聞が溜まっていると「何か起こっているに違いない」、ということで見守りしています。先ほど言われた「何でもお助け隊」のような地域コミュニティでの活動はより実践的というか、深く突っ込んだ取り組みなのかもしれません。私たちもそういう地域の取り組みを参考にさせていただきながら、私たちの取り組み自体をよりバージョンアップしていく。より実効性のあるものにしていく、そういう努力を続けていきたいと思っています。